

新春法話 ぞうせなら笑って過ぐしましように！」

あけましておめでとうございます。

今年も、延命山正光寺初詣にご参拝賜り深謝申し上げます。

さて、昨年は、家族や友人などと大いに笑うことができましたか。

古来より、日本では「笑う」ことは吉事と考えられてきました。ことわざにも「笑うかどには福来る。」
「いつも和気あいあい笑顔が満ちている家族には自然と幸福に恵まれる。」
「笑って損したものなし」
「何事にも腹を立てず、いつもにこやかにしていれば、友人から愛され幸福を招く。」とあります。昔の人は、「笑う」ことが、人生を幸せに導くものと信じていたからこそ、今日に伝わる言葉となったのです。

現代では、医学的にも「笑う」ことが心身のこりをほぐすのに良いことだと証明されています。笑うことによって、全身の血流がよくなり、血圧が下がり、心臓の働きを良くすることから循環器系の疾患の治療に効果があるとされています。そして、「笑い」は、脳の活動も活発にさせ、意欲や向上心を起こさせ、現代病の誘因の一つでもあるストレスの解消により影響を与えるとも言われています。

ところで、十一面観音菩薩という仏像があります。十一の顔を持つ観音様でその一つに「大笑相」という口を大きく開けて大笑いしている顔があります。この顔が伝える教えに、自分の子供が、きちんと反省して、改新しようとしているところを見て、うれしくて涙を流しながら笑っている親の顔を表しているといわれています。またこの顔を見たものには、煩惱にみちた心の悪を「大笑いによって吹き飛ばし利益を授けるともいわれています。一度私もこの顔を拝謁しましたが、本当に印象的で、思わず笑ってしまいました。何となく心が豊かになるのを感じ貴重な体験をしました。しかし「大笑相」の顔は、正面にあるのではなく真後ろにあるので中々拝謁することが難しいので、機会があれば是非一度拝謁してみてください。

また、大体の仏像は、大笑いこそしていませんが、なんとなく微笑んでいるような表情「静かな微笑み―和顔―」をしています。当山の「ご本尊 地藏菩薩」の「ご尊顔をよくよく見てみれば、静かに微笑んでいる姿を感じ取ることができます。もちろん慌しい心では難しいでしょう。心落ち着かせ静かにみれば判ることと思います。ご本尊様の「静かな微笑み」には、信心する人々を温かく見守ってくださる仏様の大慈悲の心が表れています。押んでいると私たちの心も温かく豊かになってくるはず。そして、その心を大切にし、「和顔」でもって、他人と接することができれば、自然と温かな心の交流を築けることでしよう。

笑って暮らすも一生、泣いて暮らすも一生」という言葉がありますが、どうせ生きるのなら、笑って愉快地楽しく一生を過ごしたいのが常人の願いだと思います。と言っても、日々大笑いをして過ごすことは、おかしなことになります。家族、近隣の人たち、友達などと、面白かった思い出を話したり、自分の失敗したことを笑い話にしたり、おかしな話をしたりして、「笑いあう」ことを大切にしたいものです。笑いがあるところには、邪気はきません。「笑」という漢字の字義に「花が咲き誇る」という意味があるように、私たちにとって「笑う」時は、命を輝かせている時間でもあることを知っていただければと思います。

今年一年、皆様の各願いが成就しますことご祈念申し上げます、一言法話とさせていただきます。

合掌

平成二十年 戊子閏年 元旦

延命山正光寺 住職 高野 隆 晃